

支援だより



平成 27 年度第 3 号
平成 27 年 6 月 26 日
神奈川県立中原養護学校
支援連携グループ

いよいよ本格的な夏が始まろうとしています。児童・生徒達には暑さに負けず、元気よく学校生活を送ってほしいと思います。さて、今月の支援だよりは、支援連携グループリーダー、進路支援係、校内外支援 OT（作業療法士）からのお知らせです。ぜひご覧ください！！

支援連携グループリーダーより

支援連携 GL 山田 良寛

先日行われたテニスのフレンチオープンで、錦織圭選手が活躍しました。強豪との戦いの中でも相手の状況に応じてショットを打ち分ける技術の高さが光っていました。素人テニスプレイヤーの私からすると、高いレベルのラリーの応酬の中でも、臨機応変に対応できる錦織選手は、全く別世界の人のように見えました。



プロテニスプレイヤーにテニスでは全くかないませんが、支援のプロを目指す私たちにも目標にできるところはあります。それは、相手の状況に応じて対応すること、つまり、子どもやご家庭のニーズを的確に把握し、状況に合わせた支援をしていくことです。

ウィンブルドンでも錦織選手の活躍を期待しています。

進路支援係より

『進路』について考える

進路支援 岸 豊一

とても固い表題で始まりましたが、進路について考えてみたいと思います。

思い返してみますと、私も高校生位の頃から「自分の進路（将来）を考えろ」と両親に言われていましたが、「何がしたい」とか「どんな職業につきたい」といった明確な目標は持っていませんでした。「目標を見つけるために大学へ進学する」というような、いかにも呑気でどこか夢見がち、ピーターパン・シンドローム（大人になりたくない症候群）だったように思います。

それに引き替え、昨今の社会の忙しさには驚かされます。私には中学、高校生の子どもが



おりますが、子ども達の話聞いてみると「小学生の1/3位」「中学生の半数位」が私立学校を受験し、あらかたそこで「大学までは決定する」ということでした。それを否定するつもりは毛頭ありませんが、牧歌的な（考え



無しな）当時の自分と比べると、「小学生の頃から大学を考えている」ということに、明確な目標があるという意味で驚かされます。

同様に特別支援学校の生徒も、高校 2 年生で卒業後の進路の方向性を決め、高校 3 年生では進路先と考える事業所で現場実習し、現場実習をした事業所の中から将来の行先を決定する、という進路決定時期の早さです。（聞くところによると、愛知県の一部では、高校 2 年生の夏の実習で卒業後の進路先が決定するとか）

では『進路』とは、卒業時の行先を決めることだけなのでしょうか？

勿論、直近の目標として卒業時の行先を決めることは重要ですが、単に卒業時の活動先を決定することが『進

路を考える』ことではありません。5年後、10年後にはどんな生活を考えているか？ご家族の支援・援助が難しくなる時期までに（20年後～30年後）どんな生活設計をしているか？その為に今準備しておくこと、できることは？

そんなことも心のどこかに留めながら、『卒業時点の進路』を考えていただきたいと思います。

「じゃあ、どんなことを考えればいいのか？」

次回からは、そんなご質問に触れていきたいと思っています。



校内外支援OTより

作業療法士 笠原 明子

支援ルームにはたくさんの教材・教具がそろっており、日々の学習活動に活用されています。

今回は、支援ルームにある教材の一部をご紹介します。



型はめ、パズル、ペグ指しなど認知機能や操作性を養う教材



目と手の協応、追視、巧緻運動機能を養う教材



感触遊び・光遊びの教材



楽器類



コミュニケーションエイド



いろいろな種類のスイッチ



食品模型など社会性を養う教材



個室

支援ルームにはまだまだたくさんの教材があります。これらの教材を活用して、認知課題、目と手の協応、巧緻動作、視聴覚や感触、コミュニケーション、社会性など個々にあった学習を行っています。

支援ルームには小さな個室もあり、個別の課題学習なども行えます。暗幕を使って、暗室にもできるので光遊びなどにも使えます。

興味をお持ちの方は是非、校内外支援係にお声かけください！！

支援だよりへのご感想、ご質問は

中原養護学校ホームページ

e-mail : nakahara01-sh@pen-kanagawa.ed.jp まで！

[http:// www.nakahara-sh.pen-kanagawa.ed.jp/](http://www.nakahara-sh.pen-kanagawa.ed.jp/)